

# アットウシ 〈鞆皮衣または樹皮衣〉\*

\*アットウシは、オヒョウという木の内皮の繊維を利用して織られており、鞆皮衣や樹皮衣ともよばれます。

# C0201

北海道／日本

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



### 参照資料

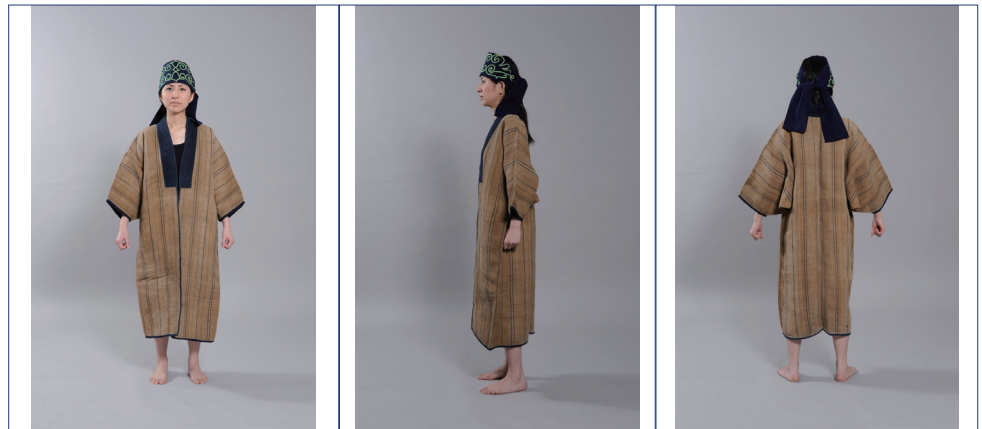
『アイヌ生活文化再現マニュアル：織る【樹皮衣】』

『アイヌ文化の基礎知識』p.76～p.97

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.8、p.9

『アイヌの人たちとともに』p.22、p.23

『アコロイタク』



アットウシは、オヒョウという木の内皮の繊維を利用して織られています。本州以南で見られる麻、シナ（紵）の布に似ています。筒そでの着物で、おくみ（左右を合わせる場所）がありません。また、労働する時は帯でしめます。

女性の場合は、モウルと呼ばれる肌着を着てから羽織ります。

このアットウシが作られたのは、19世紀後半といわれており、独特の風合いが生まれています。木綿の紺糸を織り混ぜた縞模様がみられます。

### 佐々木先生からのひとこと

アイヌ語には日本語にない発音があります。アットウシの「シ」のように小さく表記し、読むときは軽く発音します。くわしくは『アコロイタク』を見てみましょう。

アットウシは水や風にも強いので、本州でも漁師などが使用していました。

# アットウシ〈鞆皮衣または樹皮衣〉\*

\*アットウシは、オヒョウという木の内皮の繊維を利用して織られており、鞆皮衣や樹皮衣ともよばれます。

# C0202

北海道／日本

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



### 参照資料

『アイヌ生活文化再現マニュアル：織る【樹皮衣】』

『アイヌ文化の基礎知識』p.76～p.97

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.8、p.9

『アイヌの人たちとともに』p.22、p.23

『アコロイタク』



アットウシは、オヒョウという木の内皮の繊維を利用して織られています。本州以南で見られる麻、シナ（紵）の布に似ています。筒そでの着物で、おくみ（左右を合わせる場所）がありません。また、労働する時は帯でしめます。

女性の場合は、モウルと呼ばれる肌着を着てから羽織ります。

このアットウシは平成22年に作家の貝澤雪子さんが北海道の二風谷で、製作したものです。縞模様はタテ糸の数本ごとにクルミの染料で染めた樹皮糸を入れて織られています。

### 佐々木先生からのひとこと

アイヌ語には日本語にない発音があります。アットウシの「シ」のように小さく表記し、読むときは軽く発音します。くわしくは『アコロイタク』を見てみましょう。

アットウシは水や風にも強いので、本州でも漁師などが使用していました。

# 『樹皮から糸ができるまで』

# C0203

北海道／日本

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



### 参照資料

『アイヌ生活文化再現マニュアル：織る【樹皮衣】』

『アイヌ文化の基礎知識』p.76～p.97

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.8、p.9

『アイヌの人たちとともに』p.22、p.23

『パイェアンロ』p.8

『アコロイタク』

『アイヌ語で自然かんさつ図鑑』p.32

オヒョウの木からアットゥシに使用する糸ができるまでの過程がわかるキットです。

### ① オヒョウの樹皮

高さ約20～25メートルになるニレ科の落葉高木で、北海道・東北の山地に自生しています。この樹皮は2010年6月に北海道旭川で採取されたものです。樹皮はオヒョウの木から、ナタで切り込みを入れ、手を使ってはぎとります。

### ② オヒョウの内皮

はぎとった樹皮から、外皮を除き、分離した内皮を木灰※で煮ます。U字にして、立木にくくりつけ、川の流れてまかせ、ぬめりを取ります。その後、薄い層になっているところを手でさいて天日で干します。

※現在では苛性ソーダで煮る方法もあります。

### ③ 糸玉

②を水につけ、柔らかくしたものをさらに裂き、2～3ミリの幅にします。それを乾燥させ、繊維を擦って糸にします。この糸でアットゥシを織り、着物に仕立てます。この糸玉は「へそ巻き」という伝統的な方法でまとめられています。

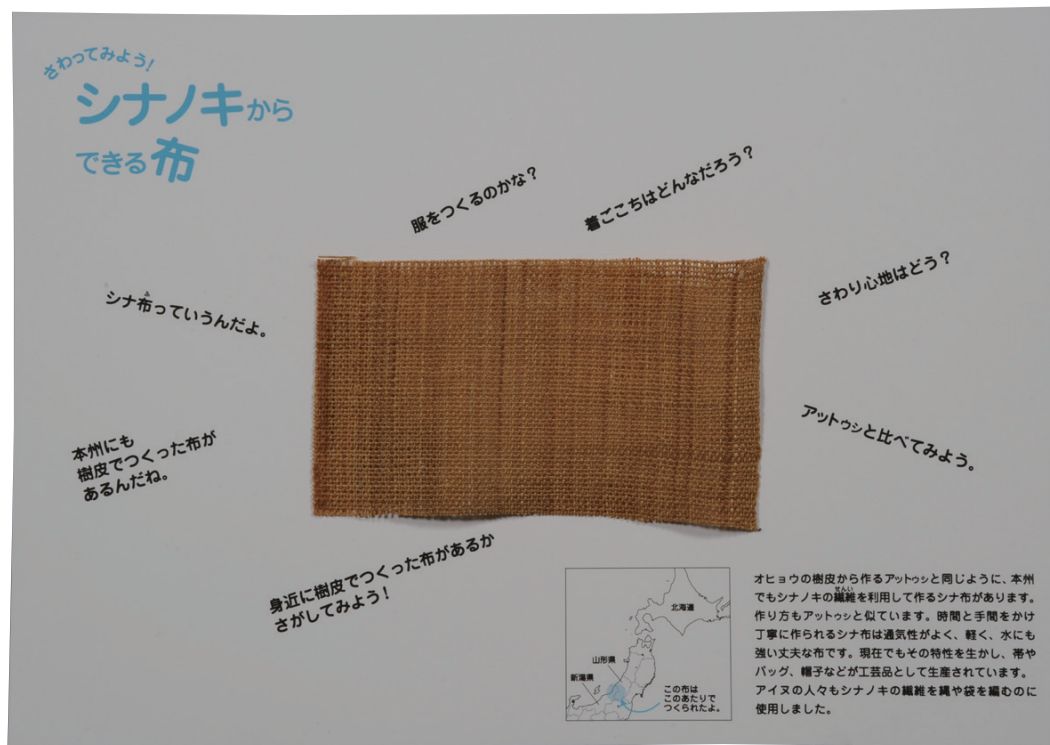
### 佐々木先生からのひとこと

②について・・・古くは温泉や、真夏の温度の高い時期の沼に泥がつかないように小枝を敷き、その上に重しの石をくくりつけた内皮を漬けこんで発酵させ、ぬめりを融かしだしました。ぬめりはごし洗うのではなく、川の流れてでて、やさしく振り洗いをします。完全にぬめりを取るのではなく、少し残すと良い生地ができます。

# 『さわってみよう！—シナノキからできる布』 C0204

北海道／日本

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



### 参照資料

『アイヌ生活文化再現マニュアル：織る【樹皮衣】』

『アイヌ文化の基礎知識』p.76～p.97

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.8、p.9

『アイヌの人たちとともに』p.22、p.23

『パイエアンロ』p.8

『アコロイタク』

『アイヌ語で自然かんさつ図鑑』p.39

北海道だけでなく、本州でも同じように樹皮で作った布があります。新潟県と山形県の県境の雪深い羽越国境で織られるシナ布です。

科木（しなのき）は北海道・東北をはじめ日本海に面した山間部に多く自生するシナノキ科の落葉高木です。オヒョウと同じく内皮の繊維を糸にして布を織り、衣服などを仕立てます。

### 佐々木先生からのひとこと

シナ布は科布、緞布とも書き、別名マダ布などともいいます。

作り方はアットゥシと似ていますが、糠に漬けてさらすなど独特の製法があります。調べてみよう！

# マタンプシ 〈はちまき〉

C0205

北海道／日本

アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物

## 参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』p.76～p.97

『アイヌ刺しゅう入門』

『アイヌ民族もんよう』

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.8、p.9

『アイヌの人たちとともに』p.22、p.23

『パイエアンロ』p.8

『アコロイタク』



a



b



男性は、猟へ行く時に、女性は、装飾品としてつけます。はちまきの表面には、きれいなアイヌ文様が刺しゅうされています。

## 佐々木先生からのひとこと

結び方は、地方によっても違いますが、頭の後ろで結ぶことが一般的です。

# テクンペ 〈手甲〉

アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物

C0206

北海道／日本



## 参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』p.76～p.97

『アイヌ刺しゅう入門』

『アイヌ民族もんよう』

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.8、p.9

『アイヌの人たちとともに』p.22、p.23

『パイエアンロ』p.8

『アコロイタク』



山や畑で労働する時、手の甲などを保護するためにつけます。和人（アイヌ以外の日本人をさします）のお百姓さんたちが使っていたものに由来しています。

## 佐々木先生からのひとこと

手甲には、死者が身につけるものもありますね。

# クツ〈帯〉

C0207

北海道／日本

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物

### 参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』p.76～p.97

『アイヌ刺しゅう入門』

『アイヌ民族もんよう』

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.8、p.9

『アイヌの人たちとともに』p.22、p.23

『パイエアンロ』p.8



着物を着る時に使います。

結ぶ位置は、前・後ろ・わきなどですが、昭和初期などの写真資料では、後ろで結んでいるものが多いようです。

### 佐々木先生からのひとこと

和服は帯の結び方にさまざまな形がありますが、アイヌの場合は、古い資料をみても詳しい結び方が明らかではありません。労働する際に、片結びなど、簡潔かつ、ほどけない方法で結んでいました。

# マンタリ 〈前掛け〉

C0208

北海道／日本

アイヌ文化に由来する2—樹皮からつくる着物

## 参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』p.76～p.97

『アイヌ刺しゅう入門』

『アイヌ民族もんよう』

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.8、p.9

『アイヌの人たちとともに』p.22、p.23

『パイエアンロ』p.8



日本語の「前垂れ（まえだれ）」に由来しています。女性が労働する時につけます。

## 佐々木先生からのひとこと

みんなのお母さんがつけているエプロンと同じようなものですね。



# ホシ〈脚絆（きゃはん）〉

C0209

北海道／日本

アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物

## 参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』p.76～p.97

『アイヌ刺しゅう入門』

『アイヌ民族もんよう』

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.8、p.9

『アイヌの人たちとともに』p.22、p.23

『パイエアンロ』p.8



山や畑で労働するときに、足を保護するためにつけます。  
上の部分はアットゥシ、下の部分は木綿でできています。

## 佐々木先生からのひとこと

脚絆には、死者が身につけるものもありますね。  
あの世へ行くには「長い旅」をしなければならないからです。

# マキリ 〈小刀〉

C0210

北海道／日本

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物

### 参照資料

『アイヌ生活文化再現マニュアル：彫る【小刀・山刀・盆】』

『アイヌ民族もんよう』

『アイヌ民族：歴史と現在 中学生用』p.34

『パイエアンロ』p.6、p.7



小刀は、動物や魚をさばくときや裁縫・木彫品を作るときなどに使われ、男女ともにいつも腰に携帯していました。このマキリ（小刀）は大正から昭和にかけてのものといわれています。マキリは刀身と鞘、柄などでできています。鞘と柄には鱗文様などの細かい彫刻が施されます。鞘は1本の木をくり抜いたり、2枚に割った木を貼り合わせたりして作ります。貼り合わせた鞘には、桜の樹皮などを巻きつけ、補強しています。

※このマキリには刀身は入っていません。

### 佐々木先生からのひとこと

かつてアイヌの男性は、結婚を申し込む時、相手の女性に小刀を贈ったそうです。彫刻ができるということは生活で使う道具を作る技術を身につけた証でした。

# イタ 〈盆〉

アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物

C0211

北海道／日本



## 参照資料

『アイヌ生活文化再現マニュアル：彫る【小刀・山刀・盆】』

『アイヌ民族もんよう』

『アイヌ民族：歴史と現在 中学生用』p.34

『パイエアンロ』p.6、p.7

一本の木からつくられています。渦巻き文様が特徴的です。神さまへのお供え物や飲み物などをのせます。

## 佐々木先生からのひとこと

マキリ一本でつくるのが一般的です。

# 楽器 ムックリ

C0212

北海道／日本

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



### 参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』p.209、p.210

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.18

『アイヌの人たちとともに』p.24、p.25

『パイエアンロ』p.4、p.5

ムックリ演奏法シート

口琴とよばれる楽器です。アイヌのものは竹製です。板の真ん中には弁という切りこみがあり、その弁をひもで引っ張って、振動させて音をだします。口の大きさや、息の量を変えることで色々な音ができます。

### 佐々木先生からのひとこと

ムックリは、海や川、風の音、動物の鳴き声などを表現したり、自分の想いを相手に伝えるときに奏でられました。ムックリは他の地域にもある楽器なので探してみよう。

ムックリは国立民族学博物館のミュージアム・ショップでもお買い求めいただけます。

TEL：06-6876-3112 FAX：06-6876-0875

(水曜定休)

# カラカラ

C0213

北海道／日本

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物

参照資料



浦川太八氏が復原製作した子供の玩具です。エゾシカの爪でつくられています。赤ん坊をあやすときに使う、取っ手のついた筒状の玩具「ガラガラ」に由来しています。

### 佐々木先生からのひとこと

爪が二重になっていて、とてもいい音ができます。

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物

## 参照資料

『アイヌ生活文化再現マニュアル：縫う【チェブケリ・ユクケリ・トッカリケリ】』

『アイヌ文化の基礎知識』  
p.54～p.73、p.76～p.80、  
p.100～p.116、p.138～  
p.169

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』 p.8～p.11、p.14～p.15、p.42～p.43

『アイヌ民族：歴史と現在 中学生用』 p.20、p.32

『アコロイタク』

『アイヌの人たちとともに』  
p.14～p.15、p.18～p.23

『アイヌ料理入門』

『アイヌ語で自然かんさつ図鑑』 p.59、p.61



写真の靴や衣服はなに（どんな素材）からできているでしょう？考えてみてください。これらの動物はアイヌの人々にとって、肉は食料、毛皮は衣服などの民具になりました。

## ①エゾシカ

北海道に生息するニホンジカで、本州以南のシカより大型です。シカはアイヌ語でユクといいます。これは冬毛の毛皮です。冬毛は夏毛より太く、長くなっているため、保温性が高く、靴や服を作るのに適しています。冬に備えて脂肪を蓄えるため食用にも適しており、シカを獲るのは主に秋から冬にかけての季節でした。

## ②ヒグマ

日本では北海道と千島に生息しており、本州などのツキノワグマよりも大型です。アイヌ語では「キムンカムイ（山の神）」などと呼ばれ、動物の中でも特に尊敬されていました。毛皮は火打石などを入れるかばんや衣類を作る素材として、肉や胆のうは食べ物や薬として利用されました。しかし、ヒグマの狩猟はふだんの生活のためではなく、信仰の対象や交易品として重視されていました。

## ③ゴマフアザラシ

北海道に生息するアザラシの一種です。流氷上で出産するため、オホーツク海岸域で冬によく見られます。アザラシはアイヌ語で「トゥカラ」などと呼ばれ、後から北海道に入ってきた人たちの間でも「トッカリ」という言葉で、今も使われています。ゴマフアザラシの毛皮は、特にサハリンやオホーツク海側の地域で、服や靴などに使われました。肉や脂も利用されました。

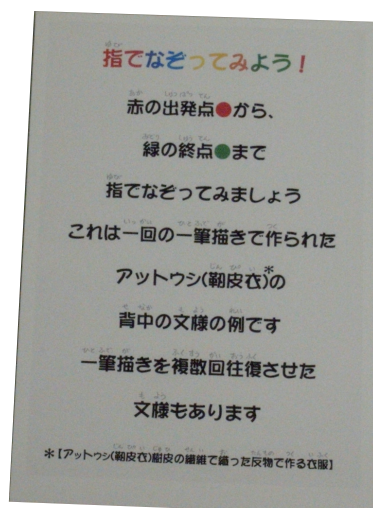
## ④サケ

シロザケはアイヌ語で「カムイチェブ（神の魚）」といいます。また、「シペ（本当の食べ物）」とも呼ばれ、身は食用、皮は靴などに利用し、捨てる部分がなく大切にされてきました。川をのぼってきたサケは海にいるときよりも脂肪が落ちて、色も変わっています。

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



a



b

### 参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』p.76～p.97

『アイヌ刺しゅう入門』

『アイヌ民族もんよう』

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.8、p.9

『アイヌの人たちとともに』p.22、p.23

『パイェアンロ』p.8

一筆描きでアイヌ文様を体験できます。

解説パネルより

「指でなぞってみよう！赤の出発点●から、緑の終点●まで指でなぞってみましょう。これは一回の一筆描きで作られたアットゥシ（鞆皮衣\*）の背中の文様の例です。一筆描きを複数回往復させた文様もあります」

\*アットゥシは、オヒョウという木の内皮の繊維を利用して織られており、鞆皮衣や樹皮衣ともよばれます。

アイヌの衣服の特徴は、えりもと・すそ・そで口・背中・こし回りにあるアイヌ文様のアップリケです。これは、服のすきまから悪霊がしのび込んでくるのを防ぐためだといわれています。背中には「目」を思わせるような文様をつけることもあります。派手な文様は男性用、地味な文様は女性用といわれていますが、とくに区別はありません。

### 佐々木先生からのひとこと

これはアイヌ独特の刺しゅうですが、フランス刺しゅうでも似た技法があるので探してみよう！アットゥシは水や風にも強いので、本州でも漁師などが使用していました。

「このモデルはアットゥシ（鞆皮衣）の背面文様です。実物はテープ状の裂いた布を折り曲げて縫いつけ置布とします。そうすると折り曲げた部分が少し盛り上がります。一筆描きの部分をよりわかりやすくするために置布は切り抜いて平らにしました。目の不自由なかたにも触っていただきたいと考えてこのようにしました。」

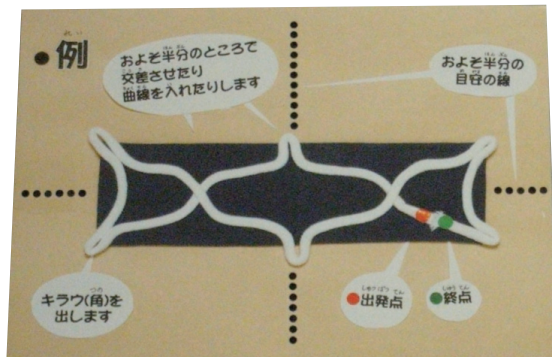
以上、製作された津田命子先生からのメッセージです。

a 文様体験ツール② ～アイヌ文様の刺しゅうの進め方～  
b・c 解説パネル

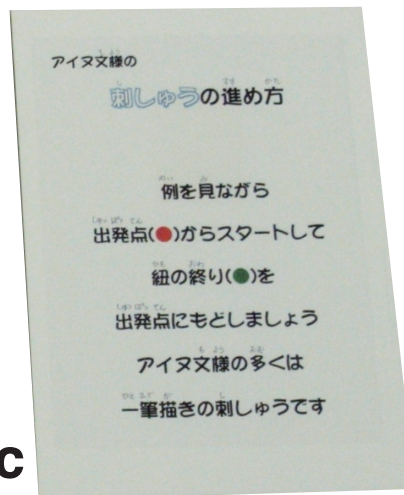
C0216

北海道／日本

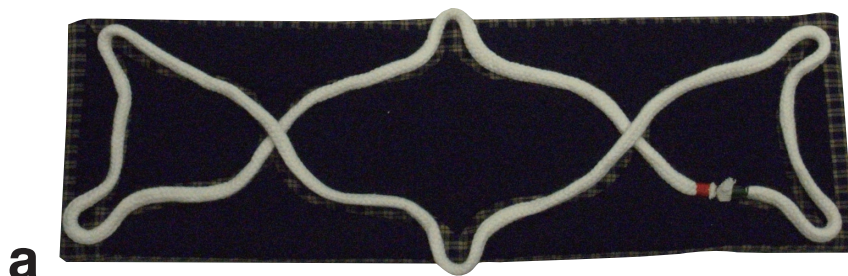
アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



b



c



参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』p.76～p.97

『アイヌ刺しゅう入門』

『アイヌ民族もんよう』

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.8、p.9

『アイヌの人たちとともに』p.22、p.23

『パイェアンロ』p.8

ひもを使って、アイヌ文様の刺しゅうの進め方を体験できます。

解説パネルより

「例を見ながら出発点●(赤色)からスタートして紐の終り●(緑色)を出発点にもどしましょう アイヌ文様の多くは一筆描きの刺しゅうです」



# サラニプ 〈編み袋〉

C0217

北海道／日本

アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物

## 参照資料

『パイェアンロ』p.10、

p.11



山で木の実を拾った時、海で貝を拾った時などに、この袋にいれます。囲炉裏にぶらさげてつかうこともあります。これはポンサラニプ（ポン=小さな、サラニプ=編み袋）で、シュロひも（ヤシ科シュロの木の幹を包む毛をより合わせて作ったひも）をつかって編まれています。

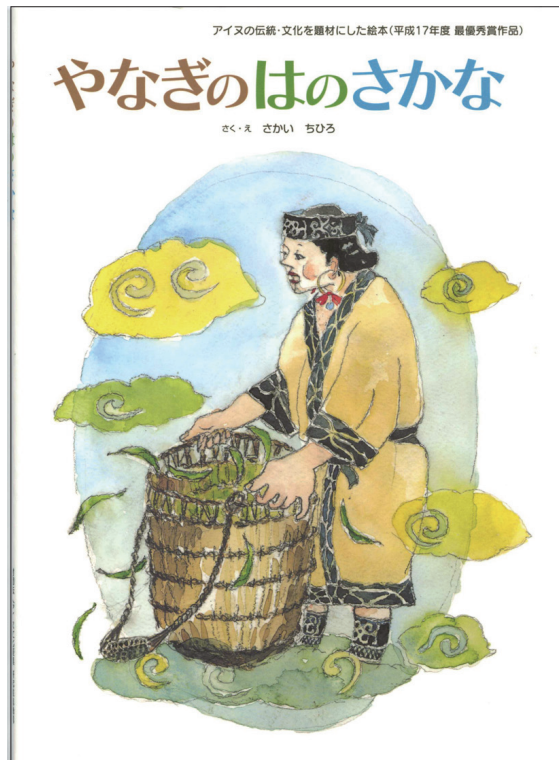
「材料ははじめ、樹皮や草皮から採取した繊維をよってひもにしたものを使って編まれました。衣服や敷物を作り出したあとの弱かったり短かったりした材料で編み袋が作り出されていました。」

以上、製作された津田命子先生からのメッセージです。

# 絵本『やなぎのはのさかな』 C0218

北海道／日本

アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



## 参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』p.100～p.116、p.138～p.169

『アイヌの人たちとともに』p.14、p.15、p.20、p.21

『アイヌ料理入門』

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.10、p.11、p.14、p.15

『パイェアンロ』p.12、p.13

『アコロイタク』

アイヌの神さまに対する考え方や、食事、アイヌ語などについて学ぶことができる絵本です。

# 絵本『くまのしっぽがみじかくなったわけ』 C0219

北海道／日本

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



### 参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』 p.100 ～ p.116、  
p.138 ～ p.169

『アイヌの人たちとともに』 p.14、 p.15、 p.20、  
p.21

『アイヌ料理入門』

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』 p.10、  
p.11、 p.14、 p.15

『パイェアンロ』 p.12、  
p.13

『アコロイタク』

アイヌの神さまに対する考え方や、食事、アイヌ語などについて学ぶことができる絵本です。

# 絵本『セツとオオカミのやくそく』 C0220

北海道／日本

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



### 参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』p.100～p.116、  
p.138～p.169

『アイヌの人たちとともに』p.14、p.15、p.20、  
p.21

『アイヌ料理入門』

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.10、  
p.11、p.14、p.15

『パイェアンロ』p.12、  
p.13

『アコロイタク』

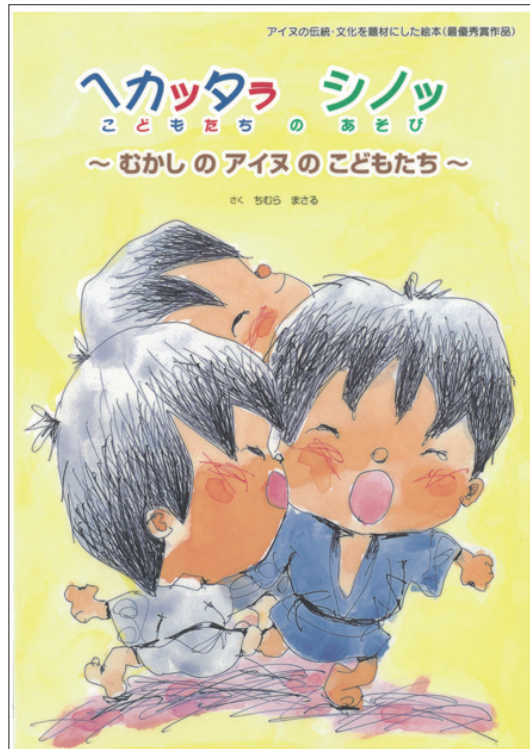
アイヌの神さまに対する考え方や、食事、アイヌ語などについて学ぶことができる絵本です。

# 絵本『ヘカッタラ シノツ』

C0221

北海道／日本

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



### 参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』p.100～p.116、  
p.138～p.169

『アイヌの人たちとともに』p.14、p.15、p.20、  
p.21

『アイヌ料理入門』

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.10、  
p.11、p.14、p.15

『パイェアンロ』p.12、  
p.13

『アコロイタク』

アイヌの神さまに対する考え方や、遊び、アイヌ語などについて学ぶことができる絵本です。

# 絵本『トヌペカランラン』

C0222

北海道／日本

アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



## 参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』p.100～p.116、  
p.138～p.169

『アイヌの人たちとともに』p.14、p.15、p.20、  
p.21

『アイヌ料理入門』

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.10、  
p.11、p.14、p.15

『パイェアンロ』p.12、  
p.13

『アコロイタク』

アイヌの神さまに対する考え方や、アイヌ語などについて学ぶことができる絵本です。

アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』p.100～p.116、p.138～p.169

『アイヌの人たちとともに』p.14、p.15、p.20、p.21

『アイヌ料理入門』

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.10、p.11、p.14、p.15

『パイェアンロ』p.12、p.13

『アコロイタク』

アイヌの神さまに対する考え方や、アイヌ語などについて学ぶことができる絵本です。

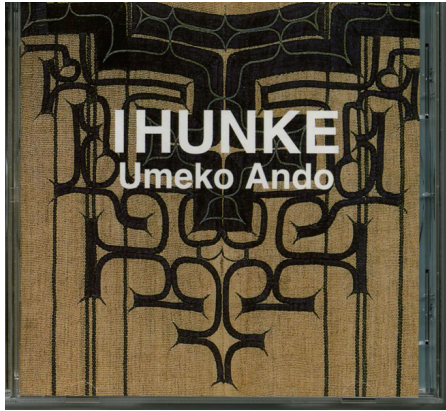
## ミュージック CD

a 『ムックリの響き：アイヌ民族の口琴と歌』, b 『IHUNKE』 / Umeko Ando

# C0224

北海道／日本

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



a



b

### 参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』 p.209 ~ p.211、  
p.216 ~ p.222

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』 p.16 ~  
p.19

『アイヌの人たちとともに』 p.24、p.25

『パイエアンロ』 p.4、  
p.5、p.14、p.15

ムックリやトンコリ、歌などの CD です。



## オプション

a 楽器 トンコリ, b てびき『西平ウメとトンコリ』

# C0225

北海道／日本

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



### 参照資料

『アイヌ文化の基礎知識』p.210、p.211

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.19

『アイヌの人たちとともに』p.25

樺太アイヌを中心に使われていた琴状の楽器です。一般的には五弦ですが、三弦のものもあります。トンコリの胴体の中には、石などが入れられており、これは楽器の心臓といわれています。音色を楽しむだけでなく、魔除けのためにも奏でられました。

楽器は左肩に立てかけて、弦はおさえずに、両手ではじくようにして弾きます。